

第2回水稻病害虫発生予察結果

4月下旬から5月上旬田植えの早生品種[コシヒカリ・キヌヒカリ等]

《稲の生育状況及び病害虫の発生状況》

5月上旬田植えの早生品種では、生育の目安となる1株あたりの稲の茎数は、多い田んぼで23本となっており、少ない田んぼで14本程度になっておりました。また、病害虫の発生は確認できませんでした。

《中干しの目的・程度》

中干しは、無効分茎(無駄な分茎)を抑え生育を適正に保つ効果や、土壌中にたまったガスを抜き、根に酸素を与え、生育後期の稲を健全に保つ効果があります。

中干しの開始は、稲の茎数が20本確保できた時期が目安となります。中干しの期間は、梅雨を考慮して約2週間を目安に行いますが雨が降らない日が続くよう(空梅雨)であれば、約1週間が目安となります。右の写真のように地面に小ヒビが入る程度に乾燥させます。



中干しの状態

《けい酸肥料の施用》

けい酸加里は、稲の茎を硬くし倒れにくくする効果や根の張りを良くする効果があります。中干し期間までに施用しましょう。施用量は10aあたり20kgが目安です。



けい酸加里

《除草剤の散布》

除草剤の中期剤として「バサグラン粒剤」があります。バサグラン粒剤を使用するときには、田んぼを湛水状態(足跡に水が少し残る程度)にして散布を行ってください。

散布直後に雨が降ってしまうと、バサグラン粒剤の効果は著しく低下してしまうので、散布後2日以上晴天の続く日をねらって散布してください。また、散布後少なくとも3日間は田んぼに水を入れられないよう管理に気を付けてください。

《バサグラン粒剤の適用雑草及び使用方法》

適用雑草	使用量	使用時期	本剤使用回数
一年生雑草(イネ科を除く) 刈り、禾ダカ、クログライ、ホタル等 ※ヒエには効果がありません	3~4kg (10a)	移植後15~55日 (但し、収穫60日前まで)	1回



バサグラン粒剤

5月下旬田植えの晩生品種[きぬむすめ・あいちのかおりSBL]

5月下旬に田植えした晩生品種の圃場では、茎数が少しずつ増えてきております。水は夕方に入れて翌朝止め、日中は溜まった水を温めることで、茎数が増えやすい環境になります。

予察の結果は、JA伊豆の国ホームページ <http://www.ja-izunokuni.or.jp/> でご覧になれます。また、FMISでも放送しております。